

2002年度（平成14年度）第1回常務理事会記録

日時：

2002年（平成14年）2月11日（月）13:00～17:00

場所：

東京大学医学部2号館（本館）南側地下カンファランスルーム

出席者：

廣川信隆（理事長）、猪口哲夫、河田光博、高田邦昭、山科正平、（以上常務理事）

依藤宏（幹事）、小森雄一郎（学会事務センター）

欠席者：

なし

I. 会議記録の確認

2001年度（平成13年度）第8回常務理事会記録（案）、2001年度（平成13年度）第4回理事会記録（案）、2001年度（平成13年度）第4回理事会議事録文部科学省提出用（案）が承認された。

II. 報告事項

1. 庶務報告（A、Bは廣川理事長、C～Iは猪口庶務担当理事よりの報告）

A. 藤原賞受賞候補者推薦の件

候補者推薦の依頼に対し一件も応募がなかったので、今年度は候補者を出さないこととした。

B. 2001年度総会に於いて承認された3名の海外名誉会員に対し、その旨の通知を出した。

C. 会員移動報告（正会員：2,578名 2001年（平成13年）12月31日現在）

■ 2001年（平成13年）11月分

i. 入会者：正会員9名、学生21名、賛助1件

ii. 退会者：正会員3名、評議員1名

iii. 住所変更等12名

■ 2001年（平成13年）12月分

i. 入会者：正会員3名、学生9名、

ii. 退会者：正会員：3名、評議員1名、名誉1名（逝去退会：三井但夫氏）

iii. 除名63名

iv. 住所変更等2名

D. 逝去会員

- 堀口正治氏（岩手医科大学 教授/理事）2002年（平成14年）1月13日逝去（享年55歳）
- 二重作豊氏（北里大学 教授/正会員）2002年（平成14年）1月14日逝去（享年60歳）

E. 教授就任による学術評議員就任者

- 松野健二郎氏（獨協医科大学解剖学マクロ講座／旧 熊本大学医学部解剖学第二講座講師 就任日2001年（平成13年）10月1日付）
- 大島勇人氏（新潟大学歯学部口腔解剖学第一講座／旧 新潟大学歯学部口腔解剖学第二講座助教授 就任日2002年（平成14年）1月1日付）

F. 学会に届けられた文書等

i. 通知

- 文部科学省より
 - a. シンポジウム2001大阪「明日をめざす科学技術」開催案内
 - b. 平成14年度「独創的革新技術開発研究の提案公募」について
- 厚生労働省より
 - a. 「国際疾患分類（ICD）100年」（CD-ROM）
 - b. 平成14年度厚生労働科学研究費補助金に係わる研究課題の公募について

ii. 書籍、定期通信他

- a. 日本医学会より「第3回日本医学会特別シンポジウム記録集－医とゲノム」
- b. 日本医師会より「JMAJ Vol.44 No.11,12」
- c. （財）日本学術協力財団より「学術の動向2001-12、2002-1」
- d. （財）国際医学情報センターより「あいみっく Vol.22 No.4」
- e. 理化学研究所脳科学総合研究センターより「RIKEN BSI NEWS Vol.14」
- f. （社）日本整形外科学会より「日整会広報室ニュース 第48号」
- g. （社）神奈川医師会より「神奈川県医師会雑誌 Vol.28 No.2」
- h. 国立療養所中部病院より「長寿医療研究センター年報 第6号」
- i. 中日友好医院より「中日友好医院学報 第15巻 4号」
- j. 第一軍医大学図書館より「中国臨床解剖学雑誌 19-4」及び「Journal of Military Medical University Vol.21 No.11」

iii. 会告掲載、推薦及び出席依頼等

- a. 科学技術振興事業団より「国立情報学研究所（NII）の学会発表データベースの科学技術振興事業団（JST）への移行についての説明会」開催案内
- b. 神経組織の成長・再生・移植研究会事務局より「第17回神経組織の成長・再生・移植研究会学術集会」会告掲載依頼

※上記2件につき下記の如く対応がなされている。

a : 都合により今回は出席を見送った。

b : 学会ホームページに掲載することにした。

G. 会員名簿作成委員会報告

- i. CD-ROM版名簿について枚数と単価の関係が示され、既に同様の形式で発行されている日本電子顕微鏡学会の名簿の評判も考慮して、予約枚数が一定以下の場合には発行中止を考える必要がある旨報告があり、この件について審議の要請があった。審議の結果、委員会提案の予約枚数が300枚以下の場合には発行を見送ることが承認された。
- ii. 掲載事項の調査用紙は、掲載機関所属者については機関毎に書面で、名誉・永年・個人会員にはハガキで個人宛に発送する予定である。
- iii. 購入予約の取り方は調査用紙の中に欄を設けることにより行う。

H. 第1回倫理委員会報告

倫理委員会（河野邦雄委員長）より、篤志献体の研究への利用に関するガイドライン作成の途中経過について報告があった。

I. その他

前回の常務理事会で審議された科研費審査委員選任に関する学術会議平野解剖学研連委員長よりの要望に関し、返答を文書で頂きたい旨、平野委員長より申し入れがあり、了承の旨を理事長名で回答した。

2. 編集報告（高田編集担当理事）

A. 解剖学雑誌 第76巻 第6号発送

発送日：2001年（平成13年）12月25日

発送部数：2,570部（製作部数2,700部）

B. 「Anatomical Science International (ASI)」及び「解剖学雑誌」分離刊行準備に状況について、ASIは創刊号が印刷に廻り、現在第2号を編集中であること、解剖学雑誌は投稿規定を改訂中である等の報告があった。

C. その他

会議記録の未掲載分についてはホームページに載せる予定である。

3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

A. 平成13年度奨励賞選考委員会報告 波多江種宣委員長より、選考の結果7件の応募の中から2名を受賞者と決定した旨報告があった。なお提案として、

- i. 同意書の添付につき、申請者が筆頭著者である論文は共同著者の同意は要らないこととする。
- ii. 「申請書」では研究内容の要約を2種類提出することになっているが、これを1本化する。

iii. その他として

a. 応募の締め切りを早めることは可能か。

b. 出版されていない研究内容の取扱に関して基準を設けるべきである。

等の意見が提出された。

常務理事会ではこの点に関し審議した結果、

- i, iiは提案通りとする。
- iii-aはとりあえず現行のままとし、数年後に見直す。

- iii-bは印刷中 (in press) の論文を除き、出版されていない研究内容は考慮の対象とすべきではないとの結論が出された。
- B. 第107回日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況について
順調に進行している旨の報告があった。
- C. 第3回APICA準備状況について
順調に進行していることが報告された。
- D. 第16回国際解剖学会議準備状況について
井出組織委員長より、
 - i. 学術会議との共催のための申請書を提出し、そのヒアリングが実施されること。
 - ii. first circularの内容、発送について検討中であること。
 - iii. plenary sessionの主な演者候補者に内諾をとるべく連絡中である等の報告があった。
- E. その他
アメリカ解剖学会次期会頭R. S. MuCuskey教授よりe-mailでアメリカ解剖学会と日本解剖学会の交流の在り方、特に合同シンポジウムの開催方法について提案があった。しかし、この提案に対する返答を短時間で文書にまとめることは理事会開催日程などから困難であるので、3月の第107回総会にあたりMuCuskey教授が来日した際に意見交換を行うこととなった。

4. 会計報告（山科会計担当理事）

- A. 日興コーディアル証券MMFの損金について
解剖学会では基本財産運用のため日興コーディアル証券の日興MMFにその一部を預けていたが、米国エンロン社倒産の結果、MMFが元本割れを起こし解約の結果、89,010円の損失が発生した旨報告があった。
- B. 2002年度（平成14年度）予算案の変更について
書店を経由しない直販方式の団体会員については、従来の予算案では事務をすべて学会が担当することとし、その会費を全額学会収入としていたが現実的ではなく、学会事務センターに業務を委託することにした。それに伴い収入の部の団体会員収入、支出の部の予備費を変更した修正案が提出された。
- C. 雑誌の広告獲得状況について報告があった。
- D. その他
宮内会計事務所に会計監査を依頼する契約を行った。

III. 審議事項

1. 2003年（平成15年度）科研費審査委員第1次候補者の選出について
科研費審査委員候補者推薦委員会（佐藤達夫委員長）より、「第1次候補者」の推薦があり審議の結果、原案通り承認された。今後この「第1次候補者」に対する全学術評議員による選挙が行われる予定である。

2. 2002年度（平成14年度）奨励賞選考委員会編成の件

表記の委員会の委員は2期勤めた委員（全委員の半数）が交代する慣例となつてゐる。後継委員の案は理事長が作成し提示することとなつた。

3. 永年会員推薦の件

永年会員推薦候補者一覧が提示され次回の理事会に諮ることが了承された。

4. 申請学術評議員の件

16件の申請のうち2件は資格に疑問があるとされ、この2件については推薦者と話し合うこととなつた。残り14件については一部書式の修正後、理事会に提案されことが了承された。なお、この件に関する理事会での審議方法についても意見が交わされた。

5. 2001年度（平成13年度）解剖・組織技術士功労賞の件

3件の推薦があり、理事会に諮ることとなつた

6. 2002年度（平成14年度）総会・学術評議員会議題について

2002年度（平成14年度）総会・学術評議員会の議題について検討が行われた。

7. 第107回日本解剖学会総会・全国学術集会時における各種委員会開催日程について

表記の件につき審議、承認された。

8. 名誉会員・永年会員について

現在は、永年会員になり5年を経た方全てが名誉会員となっているのが現状である。しかし、日本人の長寿化につれて、その数は今後一層増加する事が予想され、その推薦には何らかの基準によることが必要であると考えられた。については基準の具体案作成に猪口庶務担当理事があたることとなつた。

9. 2002年度（平成14年度）総会委任状の取りまとめについて

総会委任状は2月末頃に取りまとめ、数が少ない場合には各支部長に依頼して投函を促すよう連絡することとなつた。

10. その他

i. 日本学術会議について

理事長より政府では日本学術会議の在り方を検討中であり、今後どのように改革されるかは現在のところ不明である。場合によっては現在の第18期が半年～1年間延長される可能性や、委員の選出法についても変わる可能性があるとの報告がなされた。

ii. セミナー・ワークショップについて

前回常務理事会において懸案となつていた収入増の対策としての解剖学会主催のセミナー・ワークショップについては、もう少し具体的な調査が必要との結論に至つた。